



Dai I NAIKA News

平成 24 年 1 月 24 日

三重大学病院
総合内科、循環器内科
消化器・肝臓内科、腎臓内科
広報誌【第 5 号】

発行 / 三重大学医学部第一内科
〒514-8507 津市江戸橋2-174
TEL 059-231-5015 FAX 059-231-5201
<http://www.medic.mie-u.ac.jp/naika1/index.html>

新年を迎えて

循環器・腎臓内科 伊藤 正明

皆様 新年明けましておめでとうございます。昨年は大災害や経済の停滞など、日本では厳しいことが多い一年でありました。医療も、地域医療をはじめ厳しい状況が続いています。今年は災害からの復興をはじめとして、元気な日本、三重県になってほしいと願っています。

さて、大学では附属病院が年末に新病院に引っ越し、1月より稼働しております。救命救急センターなどの中央部門の充実、個室率の増加、4人部屋などでも患者様のスペースの拡大、アメニティーの向上が図られております。また、日海に面した病室からは、伊勢湾を一望できる素晴らしい景色が広がっています。

昨年、第一内科（循環器内科、消化器・肝臓内科、腎臓内科、総合内科）へは、先生方より、1,000名を超える患者様をご紹介頂き誠にありがとうございました。大学での内科診療は臓器別になって久しいですが、どのような患者様でも一臓器だけの異常ではなく、いろいろな臓器にわたる問題を持っておられることが多く、改めて全身を診ることの重要性を痛感しております。またこの点は、卒前卒後の内科の教育上も極めて重要と考えております。このような観点から、今後、総合内科の活動をより活発にしていきたいと思っています。外来では総合的な部門として総合診療科が当たっており、総合診療科とオーバーラップしないように活動を行いたいと

考えています。内科疾患ではあるがご紹介いただく時点で臓器別内科を特定できない場合、多臓器にわたる異常などのケースには、総合内科が先生方のお手伝いをできるかと思っております。臓器別内科での診療が適切を判断されましたら、各専門診療科へ紹介させて頂くことになります。総合内科は現在病棟のみ稼働していますので、外来でも先生方のご紹介を頂ける体制を準備したいと考えています。

先生方に時々大学へのご紹介をお願いしますと、少し敷居が高いように感じておられる先生方もおみえになるのではないかと考えております。何かお困りのご症例がございましたら、お気軽にご紹介いただければ幸いです。先生方もご存じのこととは思いますが、初診の患者様の予約受付を FAXで行っております（平日午前9時から午後4時まで）。先生方から FAX を頂きますと、原則15分以内に予約日時間を FAX で返信させて頂いております。詳しくは三重大学病院ホームページをご覧ください。

三重大学病院では、新病院への移転を契機に、医療をより安全で質の高い医療をさらに志し、中勢伊賀医療圏、三重県の医療に貢献して行きたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

今年一年、皆様にとって素晴らしい年になることを祈念いたしております。



新病院の開院によせて

三重大学大学院医学系研究科
臨床心血管病解析学講座 教授

三重大学医学部附属病院
再開発担当病院長特命補佐

中村 真潮



昨年末の12月27日に移転が無事に完了し、新しい三重大学附属病院が1月4日から正式に稼働を始めました。これまでの1年間は新しい病棟での業務がスムーズに開始されるようにと、各部門で頻りに打ち合わせが行なわれてきました。その努力のかいがあり、大きなトラブルもなく新運用が動き出しました。近隣の医療機関の先生方にも種々のお心遣いをいただいたものと、改めて御礼申し上げます。

実際に完成したのは、新病院の中心となる第I期棟です。ここには患者病棟のほかにも救急救命センター、集中治療センター、手術部、血液浄化療法部、放射線部、光学診療部、薬剤部などが移転いたしました。一方、これから旧病院の東翼を解体し、その跡地に外来などの残りの部門が入る第II期棟が、平成27年春のオープンを目指して建設予定です。ここまでの時点で附属病院再開発計画の約3分の2が終了したことになります。

新病院の特徴ですが、まず病棟の各フロアには関連のある診療科が集まり、それぞれが連携して治療に取り組みやすい環境となりました。また、救急救命センターや集中治療センターが充実し、重症患者にもこれまで以上にしっかりと対応することができます。また、手術室も増え、透析室や内視鏡室、放射線診断治療室も拡充し、スムーズに検査・治療が行える体制が整いました。

医療業務が行ないやすくなったことはもちろんですが、患者さんや医療従事者にとって最も嬉しいのは、病院自体が美しく、そして広々としたことです。環境というのは、居住する方々の気持ちや姿勢を大きく変える力があるようです。開院して間もないですが、新病院ではスタッフのこれまで以上に生き生きとした姿を見ることが出来ます。

すべてが良くなった新病院であり、残された課題はスタッフの数だけとなりました。三重県自体、看護師数、医師数ともに全国で下位に位置しますが、大学病院のスタッフ数も国公立大学の中では最下位に近い状況です。病院が新しくなるこの時期に、一人でも医療スタッフが増えることを願わずにはられません。

このように、大学病院を取り巻く環境はまだまだ厳しい状況ですが、スタッフ一同ところを新たに新病院での医療に取り組む所存です。今後とも引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

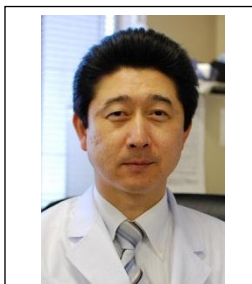
私たちの診療科がある新病棟の9階、10階からは、色あせ古くなった旧病棟を見下ろすことができます。それはまるで私たちを育ててくれた両親の背中をみるようです。38年間、ずっと私たちや三重の医療を支えてくれた旧病棟に「ありがとう」とつぶやいて、新たな飛躍を誓う年のはじめです。



ワンポイントレクチャー

心房細動の抗血栓療法におけるパラダイムシフト

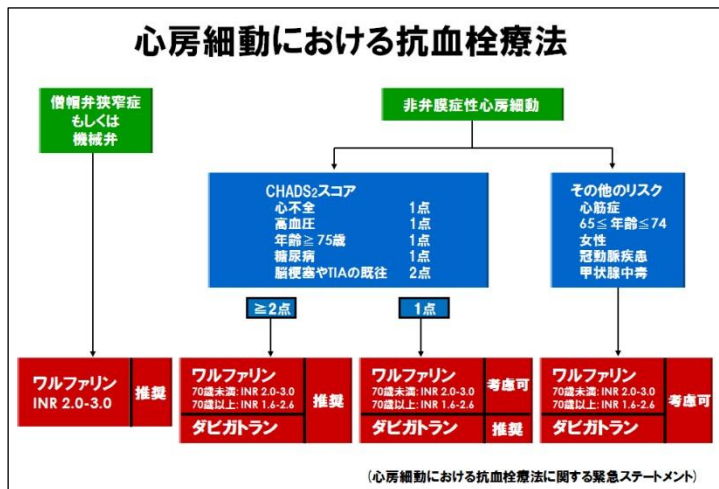
本邦においても、新しい経口抗凝固薬であるプラザキサ®カプセル（一般名：ダビガトランエテキシラートメタンスルホン酸塩）が「非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制」の適応で承認され、2011年3月11日付で薬価収載されました。非弁膜症性心房細動の定義は、リウマチ性僧帽弁疾患、人工弁および僧帽弁修復術の既往を有さない心房細動であります。これまで心房細動に対する抗血栓療法はワルファリンが唯一の薬剤で、脳梗塞の発症を68%減じることが明らかにされていました。しかしながら、PT-INRのモニタリングが求められ、納豆、クロレラ、青汁などの食物や、様々な薬物との相互作用のあることが問題でした。RE-LY 試験にて、ダビガトラン 110mg × 2/日のワルファリンに対する非劣性が、ダビガトラン 150mg × 2/日のワルファリンに対する優越性が証明されました。また、頭蓋内出血を含む重篤な出血の発症率はワルファリンを下回る結果でした。本邦のサブ解析結果も2011年に報告され、2011年8月に日本循環器学会より「心房細動における抗血栓療法に関する緊急ステートメント」が発表されました。このステートメントでは、僧帽弁狭窄症と機械弁患者に対しては、従来通りワルファリンが推奨されていますが、非弁膜症性心房細動患者に対しては各薬剤での適応が示されました(図)。ワルファリンの適応は従来通りです。ダビガトランは、CHADS2スコア1点以上で推奨とされ、その他のリスクを有する



循環器内科
講師 藤井 英太郎

外来は火曜日初診、金曜日再診を担当しています。専門は頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーションです。

患者については、使用が考慮可とされました。ダビガトランにより、心房細動に対する抗血栓療法にパラダイムシフトが起こりつつありますが、症例によっては重篤な副作用を引き起こすことが分かってきました。2011年3月14日から2011年9月13日に収集された市販後調査では、推定70,000人にダビガトランが投与され、副作用が1484例2376件に認められました。重篤な副作用は249例497件、死亡例は24例でした。出血事象による死亡を15例(消化管8例、頭蓋内3例等)に認めました。ダビガトランは、臨床的に問題となる出血リスクのある器質的病変や、透析患者を含む高度の腎障害(クレアチニンクリアランス 30mL/min 未満)のある患者では投与禁忌です。中等度の腎障害(クレアチニンクリアランス 30-50mL/min)、P-糖蛋白阻害剤併用、70歳以上、消化管出血の既往を有する患者には、ダビガトラン 1回 110mg 1日 2回投与へ減量する等慎重な投与が必要です。現在開発が進行中の他の第Xa因子阻害薬も来年以後順次承認申請される見込みの中で、新規抗凝固薬の臨床応用は脳梗塞リスクを有する患者への大きな福音です。出血性合併症を来すことのないよう、ガイドラインに従った適正使用が重要です。



お知らせ



平成24年1月から
三重大学病院が開院しました
(病棟・診療棟)

●研究会のお知らせ

「第4回循環器・腎疾患の診療ネットワークを広げる会」

テーマ：「治療が必要な不整脈にはどのようなものがありますか？」

日時：2012年2月2日(木) 19:00～

場所：プラザ洞津3F

●市民公開講座のお知らせ

「あなたの腎臓を守る」

日時：2010年3月4日(日) 13:00～

場所：三重大学講堂(三翠ホール)

「高血圧からあなたと家族をまもる」

日時：2010年3月10日(土) 開場 13:30～

場所：鳥羽市民文化会館

どちらも入場無料ですが事前にお申込みが必要です。詳細は循環器・腎臓内科ホームページ「ボランティア活動」にて

<http://www.medic.mie-u.ac.jp/naika1/index.html>

●第一内科ホームページアドレス

<http://www.medic.mie-u.ac.jp/intmed1/>

●ドクターたちのひとりごとブログ「第一内科 Café」

<http://ameblo.jp/miedainai/>

●三重大学病院循環器内科、腎臓内科

～患者様をご紹介ください～

1 FAX 新患予約

「診療予約申込書」(三重大学医学部附属病ホームページ <http://www.hosp.mie-u.ac.jp> の「医療機関の方へ」からダウンロード可)に必要事項を記入の上、FAX059-231-5541 に送信してください。15分以内に折り返しFAXで診療予約の回答をさせていただきます。

2 緊急受診、ご相談等

下記、循環器内科、腎臓内科救急ホットラインへ直接お電話下さい。病棟主任が直接対応させていただきます。

循環器内科、腎臓内科救急ホットライン

三重大学病院循環器内科、腎臓内科連絡先(直通)

内科外来：059-231-5146

病棟：059-231-5101

FAX：059-231-5518

研究棟：059-231-5015

患者様の紹介、相談にご活用ください。

本機関誌に関するご意見、ご質問は下記メールアドレス、または当科HPまで。
naika1@clin.medic.mie-u.ac.jp

